

【投信調査室コラム】

日本版ISAの道 その38

流行語大賞にノミネートされた「NISA(ニーサ)」
 にとっての「今でしょ!、お・も・て・な・し、じえじえじえ、
 倍返し」となる投信は何?

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

「今でしょ!、お・も・て・な・し、じえじえじえ、倍返し」の流行語大賞は「NISA」も候補だった

2013年12月2日(月)、今年流行した言葉に贈られる「現代用語の基礎知識選『2013 ユーキャン新語・流行語大賞』」が自由国民社から発表された。メディア等で大きく報道されていたのは、「トップテン年間大賞」は「今でしょ!」、「お・も・て・な・し」、「じえじえじえ」、「倍返し」の4つ。その他、「トップテン」として発表されたのは「アベノミクス」、「ご当地キャラ」、「特定秘密保護法」、「PM2.5」、「ブラック企業」、「ヘイトスピーチ」の6つ。さらに別に「選考委員特別賞」として「被災地が、東北が、日本がひとつになった 楽天、日本一をありがとう」である。詳細は自由国民社のホームページにあるが、2013年12月5日付「R25」には「『お・も・て・な・し』の落とし穴」という、うがった見方のコラムも出ている(URLは後述[参考ホームページ])。

「少額投資非課税制度(日本版ISA=NISA)と何か関係があるのか?」と言われそうだ。実は11月20日に発表された候補語50語(ノミネート)に「NISA(ニーサ)」が含まれていた。下記の通り。

「2013ユーキャン新語・流行語大賞」の候補語50語(ノミネート)

…「PM2.5」、「NISA(ニーサ)」、「母さん助けて詐欺」、「弾丸登山」、「美文字」、「DJポリス」、「ななつ星」、「パズドラ」、「ビッグデータ」、「SNEP(スネップ)」、「ヘイトスピーチ」、「さとり世代」、「ダークツーリズム」、「ご当地電力」、「ご当地キャラ」、「こじらせ女子」、「富士山」、「日傘男子」、「バカッター」、「激おこぷんぷん丸」、「困り顔メイク」、「涙袋メイク」、「倍返し」、「今でしょ」、「ダイオウイカ」、「じえじえじえ」、「あまロス」、「ビッグダディ」、「ハダカ的美奈子」、「ふなっしー」、「フライングゲット」、「マイナンバー」、「NSC」、「アベノミクス」、「3本の矢」、「集団的自衛権」、「特定秘密」、「汚染水」、「ブラック企業」、「限定正社員」、「追い出し部屋」、「ナチスの手口に学んだら」、「ネット選挙」、「アホノミクス」、「引いたら負け」、「二刀流」、「スポーツの底力」、「シライ」、「お・も・て・な・し」、「コントロールされている」——。尚、以上はホームページに出ている順であり、投信調査室で付けた水色の四角い枠がトップテン年間大賞、黄緑色の下線がトップテン、ピンク色の二重枠がNISA(ニーサ)となっている。



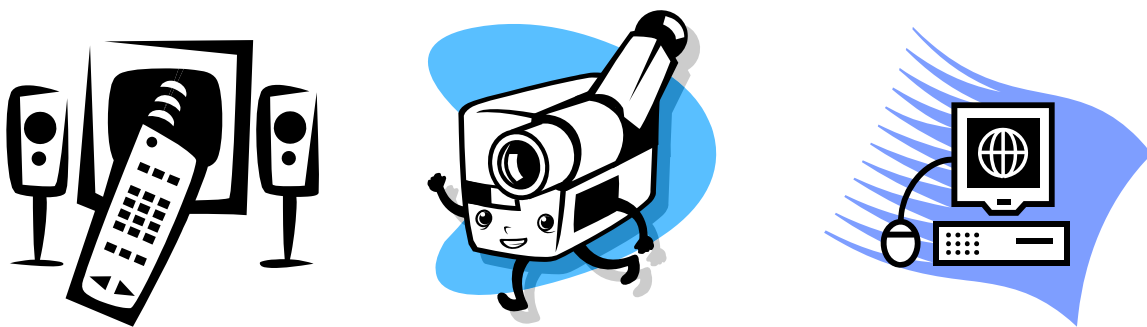
NISAにおける「人気商品の選択」を投信の純資産1~3位で見ろ

「流行語大賞」にもノミネートされた金融業界最大の流行語とも言える「NISA(ニーサ)」だが、その中、2013年12月4日(水)付日本経済新聞朝刊19面にはNISAに関連して、「NISA、証券会社が『お勧め商品』、投信が主力、初心者に選択肢」と言う見出しの記事が出ていた(URLは後述[参考ホームページ])。一部を下記に引用する。

少額投資非課税制度(日本版ISA=NISA)のスタートまであと1カ月。証券会社が相次ぎNISAを利用する投資初心者向けに「お勧め商品」を打ち出している。証券会社で購入できる商品は投資信託だけでも数百本に上る。選ぶのに困ったときは、お勧めの中から探してみるのも一案だ。お勧め商品として多くの証券会社が提案しているのは投信。少額で購入でき、分散効果が得られるためNISA向けの主力商品と位置付けているためだ。…(略)…証券会社のおすすめ商品の詳細は各社のウェブサイトなどで確認できる。ただし、説明は初心者を想定している場合が多いものの、中には比較的高いリスクが高い商品もある。お勧めだからといって、商品の特性や手数料を理解しないまま購入するのは禁物だ。(下線は筆者)~以上が当該記事。

NISA で投資する商品について「選ぶのに困ったときは、お勧めの中から探してみるのも一案だ」と出ている。しかし先の記事にもある通り、NISA は初心者も対象としていることから、初心者は金融機関選びに悩むかもしれない。金融機関から勧められても悩むかもしれない。こうした場合、初心者はどの様な選択をするだろう。一つの大きな可能性として、「人気商品の選択」、それこそ「流行した商品」を選ぶこととなるかもしれない。

「人気商品の選択」、「流行した商品」を選ぶことは金融商品以外では一般的で、国内最大の電子商店街である楽天市場では、多くの「売上ランキング」がある。ネットでの並び替えも、「満足順」や「価格が安い順」などより「売上順」が優先される場合もある。電子商店街以外もそうであり、例えば、家電でも書籍でも人気ランキングが出ているだろう。これは「皆で渡れば怖くない」的発想であり、一部の人からは批判もありそうだが、現実的な選択とも言える。ただ、金融業界でも既に各金融機関ではネット系はもちろん、対面系でも、売り上げランキングを多く発表している。この金融商品の選択におけるインデックス・ファンド化(パッシング化)を今回は検証する。



NISA で投資する商品について、まず何を「人気商品」と見なせば良いか、何をそのバロメーターとするのかが問題である。一般的に上場株式なら売買代金・売買高、投信なら設定額・販売額と言う感じだろう。ただ、ここではNISA で中心的存在になることが期待される投信の純資産に注目する。純資産には基準価額の値上がり・値下がりも含まれることから、設定額もしくは純設定額(=設定額-解約額-償還額)の方が人気のバロメーターとしては良さそうだ。だが、設定額や純設定額は自社の商品については良いが、他社商品については入手が困難となる(米国などでは日本よりもっと困難となる)。こうなると、よりデータの入手しやすい純資産が利用しやすい。その様な理由から、昔から投信の広告等で「日本株最大のファンド」とか「国内最大の投信」とかをよく見かける。

そこで純資産 1~3 位の動向を調べた。純資産 1 位を中心に「人気」の投信がその後どうなったかを見るということで、1~3 位後の純設定額の率(=当月純設定額÷前月末純資産×100)を中心にしている。結果は次頁テーブルの通りで、NISA の対象となる国内公募株式投信(追加型と単位型)でこれまで一度でも純資産の 1~3 位を記録したことがあるファンドの一覧(設定順)となっている(*1997 年 4 月~2013 年 11 月の月末ベースで、償還済みを含む 5745 本、ファンド名及び設定日は意図的に出していない)。尚、上場投信(ETF)も NISA の対象となる国内公募株式投信(追加型)ではあるが、その純資産や純設定の動向が大口投資家による現物拋出中心であることから除いてある。

その時その時の市場環境や投信動向に大きく左右されるものの、次頁テーブルを見て言えそうなことは次の通りである。

- ①人気(流行)のあった「大賞」的存在は「国内株式」と「外国債券」、次いで「アセットアロケーション」と「外国 REIT」。今年の「流行語大賞」の「今でしょ!」と「お・も・て・な・し」、「じぇじぇじぇ」と「倍返し」の様なものになるかもしれない。
- ②純資産 1 位になった 7 ファンドに限った「1 位効果(1 位後の純流入期間)」は 0 カ月~58 カ月と、かなり差があるものの、純資産 2~3 位にはあまり見られないことなので、やはり純資産 1 位により、それがさらなる人気を集める可能性はありそうだ。
- ③純資産 1~3 位を記録して圏外(1~3 位より下)になると、例外もあるが、総じて 1~3 位に戻ることはなかった(現在その可能性は極めて低くなっている)。圏外になった後、同じ分類で似た投信が 1~3 位になることも多いことから、やはり、投信でも個々の人気(流行)というものはしっかりとあるようである。

NISAの対象となる国内公募株式投信(追加型と単位型)でこれまで一度でも純資産1~3位を記録したことがあるファンド一覧(設定順) 2013年11月末現在
*1997年4月~2013年11月の月末ベースで、償還済みを含む5745本、ファンド名及び設定日は意図的に出していない。 上場投信(ETF)もNISAの対象となる国内公募株式投信(追加型)ではあるが、その純資産や純設定の動向は大口投資家による現物拠出中心であるため除いている。

分類 (ibbotson分類)	分類 (投信協会分類)	純資産1~3位を記録した時の状況 (1~3位より下は「圏外」としている) その後の純設定額の率(=当月純設定額÷前月末純資産×100)	1位効果 (1位後の 純流入 期間)
1 国内株式・大型成長型	株式追加型/インデックス/225	1997年7月に2位から3位へ低下、1997年12月に3位から圏外へ低下。 1997年7月まで純流入傾向、1997年9月からは小幅な純流出。	最高2位
2 国内株式・大型成長型	株式追加型/インデックス/225	1997年7月に3位から2位、さらに1997年9月に1位へ上昇、1997年11月に1位から2位へ低下。1997年7月~9月に純流入加速、1997年11月から純流出傾向。償還済み。	0カ月
3 デリバティブ・ブルベア型(株式型)	株式追加型/派生商品型	1997年8月まで1位、1997年9月に2位へ低下、1997年10月に2位から圏外へ低下。 1997年9月まで純流入傾向だが、1997年10月から純流出傾向。償還済み。	1カ月
4 国内株式・大型ブレンド型	株式追加型/国内株式/一般型	1999年6月に3位、1999年8月から2位、1999年9月から1位へ上昇、2000年2月に3位へ低下。1999年12月まで純流入傾向、2000年1月から純流出傾向。	3カ月
5 国内株式・大型成長型	株式追加型/国内株式/一般型	1999年10月に3位、1999年12月から2位へ上昇、2000年1月から3位へ低下。 1999年12月まで純流入傾向、2000年1月から純流出傾向。	最高2位
6 アセットアロケーション・TAA型	株式追加型/国際株式/一般型	1997年12月に2位へ上昇、1998年10月に3位へ低下、1999年4月に圏外へ。 1998年9月まで純流入傾向、1998年10月から純流出傾向。	最高2位
7 外国債券・ハイイールド型	株式追加型/バランス型	1997年11月に圏外から1位へ上昇、1998年8月に1位から圏外へ低下。 1998年5月まで純流入傾向、1998年6月から純流出傾向。	6カ月
8 外国債券・世界型(為替ヘッジあり)	株式追加型/バランス型	1997年10月に圏外から2位へ上昇、1997年11月に圏外へ低下。1998年10月から2位へ上昇。1999年4月から純流出傾向。	最高2位
9 外国債券・世界型(除く日本)	株式追加型/バランス型	1998年5月に3位へ上昇、1998年10月に圏外へ低下。 1999年1月まで純流入傾向、1999年2月から純流出傾向。	最高3位
10 外国債券・世界型	株式追加型/バランス型	2001年8月に圏外から2位へ上昇、2002年1月に1位へ上昇。 2006年11月まで純流入傾向、2006年12月から純流出傾向。	58カ月
11 外国債券・世界型(除く日本)	株式追加型/バランス型	1998年7月に圏外から2位へ上昇、1998年8月に1位へ上昇。 1999年1月まで純流入傾向、1999年2月から純流出傾向。	5カ月
12 国内株式・大型成長型	株式追加型/国内株式/一般型	2004年7月に3位へ上昇、2005年4月に圏外へ低下。 2004年11月まで純流入傾向、2004年12月から純流出傾向。	最高3位
13 外国債券・ハイイールド型	株式追加型/バランス型	2013年7月に圏外から3位へ上昇、2013年8月から2位へ上昇。 2013年10月まで純流入傾向、2013年11月は純流出。	最高2位
14 外国債券・米国型	株式追加型/バランス型	2002年8月に3位、2002年12月に2位へ上昇、2006年1月に3位へ低下、2006年4月に圏外へ。2005年5月まで純流入傾向、2005年6月から純流出傾向。	最高2位
15 国内株式・大型成長型	株式追加型/国内株式/一般型	2000年1月に圏外から2位へ上昇、2001年5月に3位へ低下、2001年11月に圏外へ低下。 2000年8月まで純流入傾向、2000年9月から純流出傾向。	最高2位
16 国内株式・大型成長型	株式追加型/国内株式/一般型	1999年12月に3位へ上昇、2000年1月に圏外へ低下。 2000年1月まで純流入傾向、2000年11月から純流出傾向。	最高3位
17 国内株式・セクター型	株式追加型/国内株式/一般型	1999年10月に圏外から2位へ上昇、1999年12月に圏外へ低下。 1999年10・11月が純流入、1999年12月から純流出傾向。	最高2位
18 国内株式・大型成長型	株式追加型/国内株式/一般型	2000年2月に1位、2002年1月に2位、2002年12月に3位、2004年7月に圏外へ。2000年2月から2000年7月まで純流入、2000年8月から純流出傾向。	5カ月
19 外国債券・米国型	株式追加型/ファンドオブファンズ	2005年4月に3位へ上昇、2005年5月に圏外へ低下。 2005年5月まで純流入傾向、2005年6月から純流出傾向。	最高3位
20 外国債券・短期型(単一国)	株式追加型/バランス型	2011年2月に3位へ上昇、2011年5月に2位へ低下、2013年5月に圏外へ低下。 2012年2月まで純流入傾向、2012年7月から純流出傾向。	最高2位
21 外国債券・アジアパシフィック型	株式追加型/バランス型	2010年8月に3位へ上昇、2010年10月に圏外、2011年9月に3位へ上昇、2013年2月に圏外。 2012年1月まで純流入傾向、2012年2月から純流出傾向。	最高3位
22 アセットアロケーション・積極型	株式追加型/ファンドオブファンズ	2006年4月に3位へ上昇、2006年8月に圏外へ低下。 2007年10月まで純流入傾向、2010年8月から純流出傾向。	最高3位
23 外国債券・世界型(除く日本)	株式追加型/バランス型	2005年6月~2005年12月に3位、2006年1月に2位へ上昇、2006年10月に3位へ低下、 2007年5月に圏外へ。2007年6月まで純流入傾向、2007年10月から純流出傾向。	最高2位
24 外国REIT(単一国)	株式追加型/ファンドオブファンズ	2013年2月に3位、2013年6月に圏外へ低下。	最高3位
25 外国REIT(単一国)	株式追加型/ファンドオブファンズ	2013年5月に圏外から2位へ上昇、2013年8月に3位。 2013年1月まで純流入傾向、2013年2月から純流入傾向。	最高2位
26 外国株式・世界型	株式追加型/ファンドオブファンズ	2006年8月に3位、2006年10月に2位、2009年3・4月の3位、2009年5月~2010年9月に2位。 2007年5月まで純流入傾向、2007年6月から純流出傾向。	最高2位
27 アセットアロケーション・積極型	株式追加型/ファンドオブファンズ	2007年5月に3位へ上昇、2008年10月に圏外へ低下。 2007年12月まで純流入傾向、2008年1月から純流出傾向。	最高3位
28 外国債券・マルチストラテジー型	株式追加型/ファンドオブファンズ	2010年10月に圏外から2位へ上昇、2011年5月に3位へ低下、2011年9月に圏外へ低下。 2010年12月まで純流入傾向、2011年11月から純流出傾向。	最高2位

(出所: ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

【参考ホームページ】

「現代用語の基礎知識選『2013ユーキャン新語・流行語大賞』を発表する自由国民社…」 <http://singo.jiyu.co.jp/>、
web R25…」 <http://r25.yahoo.co.jp/>、2013年12月4日(水)付日本経済新聞朝刊記事「NISA、証券会社が『お勧め商品』、投信が主力、初心者に選択肢」…」 <http://www.nikkei.com/article/DGKDZO63532230T01C13A2PPD000/>。

以上

(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

○本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。

○本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

○本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。

○本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。